

秀英産業 株式会社

独自の製品管理システムと
生産システムで事業を発展海外
発注可
納期
相談
企画力
自信有
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産
対応

取扱商品の展示室

主な事業内容

軽衣料、健康用品、日用雑貨
などの企画・製造・販売

主な取引先(納入先)

全国の生活協同組合連合会、
通信販売会社、小売卸業者

主な製品

軽衣料、健康用品、日用雑貨、
フォーマル用品など業務
内容大手メーカーとの取引で
管理ノウハウを蓄積

秀英産業は、軽衣料や健康用品、日用雑貨などの企画・製造・販売を手がける。昭和56年に創業し、本田技研工業を主要顧客にバイクのシートなどの生産で事業を発展させた。「この間に学んだ技術や製品管理手法が事業の礎」と小柳大輔社長は話す。

現在は、全国の生活協同組合や大手通信販売会社を相手に事業を展開。不織布への印刷技術を用いた布団収納袋や自転車のかごカバーといった独自製品がヒットし、販路が広がった。独自製品のアイテム数はサイズ・色違いを含め2,000点。創業時に学んだ管理システムによって、顧客の納期厳守と安定供給のニーズに込められている。

強み
独自のシステムで
一貫した製品管理

製品管理の中核は、独自のオフィスコンピュータが担う。これでデザイン、営業、納期、材料調達、生産、物流、請求関連業務まで一貫管理を行う。商品コードと納期、予測数量を入力すると、資材コードに紐付いて材料や部材が表示される。部材の在庫確認が済むと、

不足分の入荷を待つて生産時期をコンピュータ上で確定する。

現在の取引は納期が3カ月―半年先で、生産計画が立てやすい。6―7割を先に作り、全体数が予測できた時点で追加生産する。多品種小ロットの生産ニーズにも、対応可能だ。「在庫が残りにくい生産システムなので最終的に利益を生む」と小柳社長は解説する。

生産
管理
無駄な“モノ”を
作らないものづくり

製品管理システムは、本田技研工業との取引時代から手書きで運用してきた手法がベース。平成15年に4,000万円以上かけて、デジタル化した。生産現場には製品を自由に入れ換えられるブロック生産を導入しており、多品種小ロットへの対応力を備える。

安定した納期管理と生産体制にOEM（相手先ブランド生産）が増加傾向にある。年間300点以上の新製品を生み出す高い企画力も評価を得る。コロナ禍において通信販売市場が拡大した影響で、業績は右肩上がりだ。小柳社長は「SDGs（持続可能な開発目標）やエシカルな取り組みが注目される中、無駄な“モノ”を作らないものづくりを進めていく」と力を込める。

社長あいさつ

代表取締役
小柳 大輔さん

AI(人工知能)技術などが画期的に進んでいますが、ミシンを使う縫製業はまだ人の手を必要としています。企業としても、ものづくりとしても大事なものは“人”です。人とのつながりを大切に生産した商品をお届けすることで、お客様に笑顔が生まれるものづくりに取り組んでいます。

主な保有設備

- 工業用ミシン
JUKI製、ヤマト製、ベガサス製など
159台
- CAD
旭化成製 3台
- CAM
ガーバー製 2台
- コンピューターミシン
JUKI製 4台

大阪
03

住 所／〒594-1151
和泉市
唐国町1-5-41
T E L／0725-54-3799
F A X／0725-54-3899
創 業／昭和56年3月
設 立／昭和63年7月
資本金／300万円
従業員／69名



自動裁断を行うCAMと自動裁断機



縫製現場の工場内


<https://www.e-shuei.co.jp/>